

（３）団体からの事例の紹介及び質疑応答

・大豊町碁石茶生産組合

司会：「大豊町碁石茶生産組合」さんは、「株式会社大豊ゆとりファームを核とする碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取り組み」で、アクションプランに入れさせていただいています。



Aさん：碁石茶生産組合は、幻の珍茶、大豊の碁石茶を町の特産品にしようと平成17年9月、生産農家自らにより設立されました。碁石茶の科学的分析を実施し、製造に関するノウハウを確立し、共有し、効能の裏付けを持つことにより、伝統が守られ、品質の向上と生産量の拡大を実現することが目的です。

お茶の分類は、発酵茶で、発酵茶の中の微生物発酵茶、その中で漬物茶、漬物茶の中の二段発酵茶が碁石茶の位置づけとなります。碁石茶の製造方法は、6月から8月にかけて茶摘みで枝から切ります。碁石茶はしっかりとした塊のお茶になるため、硬い葉を使用します。切ってきた茶木を桶にしっかり詰めて蒸します。蒸し上がった茶葉から枝、ゴミなどを取り除き、専用の部屋で寝かせてカビ付けを行います。カビ付けされた茶葉を取り出し、桶に漬け込み重石をかけ、二次発酵させます。発酵が完了したら天気の良い日に外で干します。茶葉を並べて干している様子が碁盤に並んだ碁石に似ていることから碁石茶と呼ばれています。

平成19年2月に地域ブランド表示基準制度の「日本に現存する唯一の微生物発酵茶」として『本場の本物』に認定されました。また平成20年には、碁石茶のブランド統一化として、パッケージ、販売価格などを統一して、大手健康食品会社と提携し、全国販売を展開しています。

碁石茶生産組合は、地域活性化を実現させるために、碁石茶が地域の産業へと発展していき、外貨の獲得、新規雇用の創出が得られるよう頑張っています。

大豊町の拠点ビジネスの計画は、嶺北地域アクションプランの取り組みにおいて「株式会社大豊ゆとりファームを核とする碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取り組み」を行っています。アクションプランの中で農産物販売体制づくり、販売拠点を整備し、農家への生産指導、生産調整を行い、配送集出荷システムを構築することにより、農家の所得向上が見られます。加工品開発に更なるブランド育成を行い、碁石茶やユズの生産、農作業の受委託事業の拡大を図ることにより、大豊ゆとりファームの経営基盤の安定が期待できます。大豊ゆとりファームは地域産業再生、農地の保全を進め、中山間地域の雇用の受け皿となる拠点組織を作り上げます。多角的に展開する拠点型ビジネスの仕組みを作り上げていくよう頑張っています。

今後の事業展開において、新たな加工商品を開発し、地域特産品の商品化に向けた取り組みが必要となってきます。大豊ゆとりファームは碁石茶の生産拠点とし、また

大豊町碁石茶生産組合の事務局として生産、商品の販売拠点として位置づけ、碁石茶販売額 1 億円を目指し、碁石茶の増産を行い、販売促進、販売ルートの確保を進めていく考えです。

Bさん： おかげさまで全国展開ができ、お力添えをありがとうございます。

碁石茶は大豊町に昔から長いことあるものですが、日本でオンリーワンと宣伝し、今大学で調べていただき健康にいいことも分かってきていますので、今後ともよろしくをお願いします。

Cさん： 私は、品質の統一が一番大事だと思っています。だから、みんなで力を合わせて品質統一をやっています。生産は各自なので一生懸命いいものを作ろうと思っています。しかし、販売は県で力を入れていただいて、促していただきたいと考えていますので、どうかよろしくお願いします。

知事： 碁石茶は最近どんどん伸びていて、今や全国 800 店舗で取り扱いがされてきている。23 年度の売上目標額が 1 億円、本当にすばらしいと思います。ぜひとも、今後もっと販路を開拓していただきたいと思います。

私が碁石茶にすごく夢があると思うのは、いろいろな意味で日本唯一ということです。お茶で発酵させているもの、二次発酵までしているのが唯一であり、作れるところも大豊町。一部他の村でもやっていると聞きますが、本格的に作っておられるのはここだけだそうです。こういう商品は作ったらすぐに真似をされますが、これはなかなか真似ができない点においても優位だと思います。さらに、健康に良いのも加わり、科学的な成分上いろいろな効能が明らかになってくる可能性があるということで、それもすばらしいと思います。

先ほど申し上げたように、いろいろな全国の商談会の声もかかっていますので、ぜひそういう場に参加をいただいて、私たちが開拓してきた機会を使い倒していただきたいと思います。

今後、例えばより売れていくと、生産量の拡大も一つの課題になってくると思います。逆に言うと、商談をし、例えば 100 の量を出してくれと言われたときに、60 しか出せないとなったら、販路開拓の機会が潰れてしまいます。そういう意味において、先ほど生産面では品質の統一が重要だとお話をされましたが、もう一つ生産拡大に向けてどうしていくかも非常に重要な課題であると思います。そのあたりのお取り組みはいかがですか。

Cさん： 隠れたお茶もいっぱいありますので、それも開拓して、大豊町は高齢化となっていますので委託というか、量を増やし、私の考えとしては、これからは若い人にもお茶の産業に加わっていただいて、より活性できるように。生産を増やすためには、遊休地を開拓して、お茶の木を植えていき、取り組んでいかなければと思う面もある。当分はお茶の木はあるけど、そのままほったらかしになっているのは手入れをしていただいて、生産を上げ

ていく。だんだん増えています。全員が集まって生産量を調べてはないですが、聞くと
ころによると、昨年に比べると倍近いくらいできたのではないかと申しています。

知事： 碁石茶の世界は、素晴らしいと思います。「本場の本物」の認証をとられて、初めか
ら自社ブランドで大豊の碁石茶の形で売っておられる。多分最初是他社のブランドを
使った方が楽でしょうが、初めから自社のブランドで打って出ていかれたから、逆に
800 店舗も売れるようになったときには、それが強みに変わります。17 年くらいから
の長い取り組みの中で、皆さんが努力をされてきたことで、だんだん伸びてこられた
ものが今大きく飛躍の時を迎えんとされていると思います。より大きく飛躍していく
ときに、県庁の機会也大いに使っていただきたいと思います。大豊町のみならず、嶺
北、もっと言えば高知県の特産品として大きく羽ばたいていただきたいと思います。